

森 新

SEIJU

創刊号

1983 夏 季



横浜 善光寺刊

残暑仰見舞中一と作ります

皆様の御礼ももちまわると当寺開創
十五周年を迎えました。此を機に
従来書写して御覧の拓華を改め
『華壽』とし、第創刊号をお送り
致し奉り、何卒御高読くださるべく
又御感想を頂戴いただき、御返書に
存じます。書名は『時流才媛』と
申候所といたします。

金堂

昭和五十二年九月一日

華壽山善光寺住職 黒田武志 啓

各位 殿

華はなの香り

華はなの香かは

風かぜにさからいては行いかず

梅うめ檀だんも多た揭が羅らも

末ま利り迦かもまた然しかり

されど

善よ人ひとの香かは

風かぜにさからいつつもゆく

善よき士しの徳とくは

すべすての方なたに薫かほる

「法句経」



森 新

SEIJU

創刊号

